

迎新年之辞

幽谷小遊しみなくさる年のあそびと
硯の蔭に送りて、東雲小喜びなくとり
年の新しきと硯の影小迎へつ、又讀者の
見ゆる事となりぬ、年々策々、北冥望
と以て進みゆく新日本の天地小、北冥望
と以て生れぬ我等、又北冥望を以て此日
出度新年を迎へぬ、^{北冥望} 万苦由千辛ハハ
是れ我切雄磨勵の地なり、願はくハ諸君
と共に万難排し去て、日本帝國の^{北冥望} 雄圖

お開けお人

記憶

~~想起~~ 明治三十二年の新年

想起 明治三十二年の新年、我國破天荒の事實あり、國會開設
お開けお人、新年、余ハ凱歌を以て之を迎へ、^{お開けお人} 昔松んど
代とと酒の酔歌漫舞り中、^{お開けお人} 氣血
又起ん、^{お開けお人} 北冥望の奮闘、^{お開けお人} シルバと病みて、^{お開けお人} 奮闘
命脈後ハ、^{お開けお人} 池とまはる、^{お開けお人} 信の外
又起ん、^{お開けお人} 七廿年の正月ハ、我生迄の新年ハ、^{お開けお人} 奮闘
能ハ茫平として人事と有貴、^{お開けお人} 阿呆の如く、^{お開けお人} 阿呆

世
其初よりあるべき事と云ふは、
例とせり。此れは、
の爲め、其の爲め、國家の爲め、
と云ふ